

# グリーンニュース 第33号

発行年月日 平成 19年 9月 18日  
発行責任者 群馬県環境アドバイザー連絡協議会  
代表 鈴木 克彬

環境アドバイザー重点行動テーマ

## 行動する環境アドバイザー

・・・研修・情報交換の場を広く・・・



環境政策課からのお知らせ (2ページ)

専門部会・地域活動にご参加を・お知らせ (3ページ)

温暖化・エネルギー部会新年度第1回会合報告

「大都会の海知られざる東京湾」NHKスペシャルを視聴して (4ページ)

ごみの排出量削減に努めよう・私が自然保護にこだわる理由 (5ページ)

湯ノ丸山レンゲツツジ保存活動・環境アドバイザー高崎地区会の紹介 (6ページ)

荒れた公共空間を各所に変えました (7ページ)

広報ア・ラ・カルト (8ページ)

## “環境”関連情報・秋の催しあれこれ...気軽に参加・情報収集はいかが。。



### 『ゆうまちゃんの県民エコDo!』参加者 募集中!

地球温暖化のために1人ひとりが日常でできることやその効果を体験的に知るワークブック「ゆうまちゃんの県民エコDo! (H19版)」を配布しています。電気・水道の節約やごみの減量に取り組む2週間のプログラムで、これまでの生活をする1週目と、家族で作戦をたてて実行する2週目を比較し、地球温暖化の原因となるCO2削減量を調べることで、その成果を体験できます。取組結果をワークブックのハガキで応募すると抽選で温泉宿泊券があたるチャンスもあります。) 身近な方にもぜひ参加を呼びかけてください。 配布・問合せ先：群馬県地球温暖化防止活動推進センター

### 「ぐんま環境&森林フェスティバル」&「3R推進関東大会」

今年で9回目となる「ぐんま環境&森林フェスティバル」が開催されます。今年「第2回3R推進関東大会」も同時開催され、3R (Reduce, Reuse, Recycle) はもちろん不法投棄防止や地球温暖化防止に関するさまざまな催しものや展示があります。環境アドバイザー連絡協議会も出展予定です。

日時：10月14日(日) 10:00~16:00

場所：群馬県庁(県民広場、県民ホールほか)

内容：環境トーク&ライブ(山本コータロー氏)、3R漫談「もったいない善兵衛」(神田 紫氏)、ごみ分別体験ゲーム、お買い物コーナー、風呂敷の包み方実演教室、エコカー展示、木工工作マイバッグを作ろう、チャリティバザー、県内企業出展コーナー 等々

使い捨て食器を使わない再利用システムによる食べ物コーナーも出店され、運営には環境アドバイザーなどボランティアの方々が活躍されます。ぜひ、お立ち寄りください。 ※詳細同封別紙!

※詳細は、今回同封するチラシをごらんください。

最近、県ホームページや広報紙、新聞掲載記事では、環境・森林局以外のイベントでも「地球温暖化防止」や「環境にやさしい」といった言葉をよく見かけます。日程の近いものをいくつかご紹介します。

### ぐんまの山村・グリーンツーリズム体験フェア

9月30日(日) 10:00~16:00 場所：県庁県民広場ほか

山の暮らしやグリーンツーリズムなどの情報が満載。伝統工芸や田舎料理などの体験コーナーや旬の新鮮採れたて野菜、木工品などの特産品展示即売コーナー、伝統芸能の披露など見どころ盛りだくさん! (→「地産地消」「フードマイレージ」「スローフード」等のキーワードで見直すと、群馬だからこそ

取り組めるものや、これって、環境によかったのか...というものがみつかるかもしれません。)

### ぐんまサイクリングフェア2007

10月13日(土) 11:00~14:00 場所：庚申山総合公園(藤岡市藤岡)

サイクルスタンプラリー 集合9:00 (要事前申込 9月30日(日)〆切)

町中やサイクリングロードを巡るサイクリングスタンプラリー、おもしろ自転車、各種自転車展示試乗など。(→車王国・群馬ですが、脱クルマ社会に向けての楽しいヒント?!があるかもしれません)

# 専門部会・地域活動にご参加を

～皆で知恵を出し、環境課題を一步でも前進させたい～

地球規模で、世界各地で発生している異常気象や異常現象。これも地球温暖化が要因と言われています。また来年は日本の洞爺湖温泉でサミットがあり、日本は、アメリカ・中国・インド等各国へCO2削減協定国参画への働きかけの役割を担っています。

このような状況下、私達は何をなすべきか、何が出来るのか、皆で集まり、知恵を出し合いたいと思います。是非、各種の集まり・事業等にご参加ください。お待ちしております。

(連絡協議会 代表 鈴木 克彬)



本年4月からの環境アドバイザー更新を機に、7月に各地域での説明会に合わせ環境アドバイザー連絡協会の幹事選出、さらに幹事会、総会が催され以下の方が役員等に選任されました。

註:( )内は H19 以降の登録番号

**代表**／鈴木克彬(01008)、**副代表**／城田博巳(01006)、野村武彦(04019)、彦部雪夫(10001)

**書記**／宗 義彦(01026)、鈴木浩子(01038)、増茂 満(03020)、金井拓実(03022)、奈賀由香子(04013)、新井靖衛(04031)、磯貝享子(04042)、中澤 章(04056)、辰身武昭(05008)  
吉田 孝(06004)、天笠正義(09005)、丸山芳徳(10012)、久保田伯一(11008)

**幹事**: 上記を含め地域毎での選任者。

<前橋>羽鳥准雄(01001)、市村 陞(01011)、福田茂子(01023)、小川仁司(01031)、吉川 聡(01037)、片山満秋(01043)、櫻井宏昌(01045)、宮崎亮二(01048)

<渋川>高田由美子(02004)、村上慎一(02005)

<伊勢崎>下城茂夫(03003)、千葉弘孝(03004)、吉江富雄(03015)、北爪郁子(03025)

<高崎>山口牧夫(04001)、小宮ふみ子(04002)、大野 茂(04005)、茂木良雄(04011) 杉本清司(04014)、小倉隆司(04026)、畔見和佳(04030)、生方輝亘(04048) 安田金蔵(04051) 原田邦昭(04058)

<藤岡>辰身武昭(05008)

<富岡>吉田 孝(06004)

<吾妻>大島義夫(07003)、河原田学也(07011)

<利根>角田和男(08006)、金井千栄子(08010)

<太田>須藤 功(09012)、久保田文三(09014)、飯塚清苑(09017)、山口 博(09025)

<桐生>星野榮一(10004)、星野智慧(10014)、高木 厚(10017)

<館林>徳竹理兵(11001)、保田朝夫(11003)、小倉章利(11007)、黒河早百合(11011)

**顧問**: 新井榮一(01005)、山口牧夫(04001)、真下淑恵(08007)

**監査**: 下城茂夫(03003)、片亀 光(03033)、小宮ふみ子(04002)



## 温暖化・エネルギー部会 新年度第1回会合 報告

環境アドバイザー連絡協議会は本年4月からの登録者で新たにスタートとなり、本部会も新体制で臨むことになり、9/1に22名の参加を得て初会合を催しました。前年度は、これまでの勉強会中心から、より具体的な温暖化防止のための行動ということで、太田市の太陽光の街や自然エネルギー施設見学会を実施しながら小水力発電と菜の花プロジェクトに注目しました。

「小水力発電」は群馬県が技術、発電量でも全国的にトップレベルにあるにも関わらず、県民にあまり知られていないので、PRと拡大策を模索しようということです。また廃食油からBDFを精製する「菜の花プロジェクト」も、ここ1~2年で県内各地に広まり、環境アドバイザーもその中核メンバーとして活躍しています。

この度の部会では、さらに「公共交通プロジェクト」、「グリーンカーテン」を加えることになりました。

「公共交通プロジェクト」ではCO2を削減する上で運輸・自家用車対策は重要で、自動車から公共交通や自転車へのシフトを話し合っていきます。

「グリーンカーテン」については、学校や一般家庭でも景観や日除けとしてかなり広まっており、これを温暖化防止対策として位置づけ、さらに地域に広げるために種子の配布を予定しています。アサガオやゴーヤを植栽している方、秋、種子が出来ましたなら分けて下さい。集まった種子は、来年1~4月に小袋に入れ、希望者への配布を考えています。

以上の活動への皆さんの参加・ご協力をお願い致します。

(温暖化・エネルギー部会 小川 仁司)

## 「大都会の海 知られざる東京湾」NHKスペシャルを視聴して

6月4日に放映された番組です。かつては死の海とよばれた東京湾、それが今豊富な生き物の世界へとよみがえりつつあるということです。その知られざる東京湾の四季を伝えていました。番組はまずスズキの豊かな水揚げの光景からスタート。なんと全国の水揚げの30%は東京湾で、千葉県の水揚げ高が全国一というから驚きです。船橋から漁に出た船がアクアラインのすぐそばで漁をしている光景に唖然としてしまいました。昭和40年代は工場廃水や生活廃水が流れ込み、ヘドロが発生して死の海といわれた東京湾です。その後、排水の浄化や環境改善が大幅に進み、今では2万人の潮干狩り客でも取りつくせないほどの天然のアサリが生息しているとか。そして海の中は豊富な生きものの世界。人工物やコンビナートの浄化された排水口付近では多くの魚介類が戯れていました。クロダイ、メバル、アイナメ、アシナガツノガニの大群…。そして黒潮が流れ込む外湾と栄養が豊富な排水が流れ出る内湾の潮目は熱塩フロントとよばれ、東京湾とは思えない豊富な生きものの生態系が形づくられています。若者のスポット、八景島やお台場の海でも市民グループの活動で海底にアマモが植えつけられ、多くの生きものが宿りつつあることも知りました。夏の終わり頃には、排水の富栄養化によるプランクトンの大量発生で青潮が発生するなどまだまだ問題を抱えていますが、多くの命がよみがえりつつある東京湾の今を知り、環境問題に地道に取り組むことの大切さを感じました。環境の悪化を伝える新聞記事やTV番組に接し気が重くなる昨今ですが、こういった前向きな成果を伝える番組映像や情報からも、環境に取り組む気持ちを刺激されたいものです。

(広報部会 島田 敏広)

## ごみの排出量削減に努めよう

「群馬県の一般廃棄物」平成9年度版から16年度版について年度毎のごみの排出量原単位の推移を吉澤氏が2月24日付けで纏めている。

ごみの排出量削減は我々の究極の目標であることから、この点を吉澤氏の「纏め」から見てみたい。1人1日当たりのごみ排出量の推移を平成10年度と平成16年度との比較で見ると次のようになる。本県の場合、平成10年の1063.1g/人日に対し平成16年は1091.5g/人日と6.9%の増加になっている。これに対し全国平均では平成10年の1118.0g/人日が平成16年では1086.0g/人日と2.7%減となっている。この原因として次のような推定を試みた。上記「纏め」から市町村別に見た場合1人1日当たりのごみ排出量は市部が最も多く町部、村部と順次減少している。即ち群馬県でも生活の都市化が進み、それがごみの排出量の増加を促しているのではないかと。ただこうした単純な解釈で納得してはいけない。あくまでも排出量削減はリサイクルに優先する究極の目標であり、この目標に少しでも近付くためにはどう取り組むべきかを模索しつづけなければならない。

(ごみ部会 新井 靖衛)

## 私が自然保護にこだわる理由

7月に伊香保森林公園で実施した自然観察会で、参加した天笠様にイースター島の自然破壊の経過を説明して頂いた。7世紀にポリネシアから移住した住民が部族ごとにモアイ像(祖先を祀る大きな石像)の作成を競い合った。石像作りや、運搬に大量の木材や大勢の人が必要になり人口は急増した。しかし、18世紀には森林破壊が進んで人が住めない島になってしまった。降雨で表土は流出し現在では荒地だけが広がる島になっている。現在の人類も地球規模で同じことを進めているのではないかという話である。

これを裏付ける話は枚挙にいとまがない。現在の地球上の人口は66億人、この約15%、10億人が飢餓状態にあるという。一方、先進国ではほぼ同数の人が肥満に悩んでいるという。経済的に貧しい国では生きるために森林を開拓して農地を拡大する。豊かな先進国では温暖化の防止を志向しつつも消費の拡大(温暖化促進の懸念大)が政治経済の主要な目標になっている。自由(経済)主義は未だにこれを調整する機能を持たずにいる。地球上の耕地面積から推定する地球が養える人口は50億人に満たないという。森林を伐採して農地を造成すると、温暖化の主要因である炭酸ガスの吸収能力は低下してしまう。地産地消は輸送エネルギーを節約できるが、地域ブランド振興は輸送エネルギーを増やす方向になる。大切なことは何か、ここにも温暖化防止の難しさがある。

飢餓救済も温暖化防止も諦めるわけにはいかない。現在、実施している廃食用油回収結果からも、如何に物が無計画に購入(または贈与)されそのまま廃棄されているという状況が見えてくる。成立させるには我々の生活思想を劇的に変え、物質的な豊かさの追求を止め、生活の自然回帰を進めることが望ましい。多くの方々から袋だたきになりそうであるが、中国の一人っ子政策や先進諸国の少子高齢化傾向などは飢餓救済や温暖化防止には最高の選択肢ではないかとさえ思えてくる。

植物は光合成の結果として炭酸ガスを酸素に変え、有機物を作り出す。しかも、これは植物しかできない(例外はあるが)。酸素も有機物もすべての動物が生きていくのに欠かせない物質である。植物は人類には真似のできない離れ業をいとも簡単にやってのける。人の心の癒し効果も大きい。環境を改善するためにしなければならないことは多いが、自然環境を大切にすることは遥かに優先度が高く見える。政治やメディアに期待するだけでなく私達の行動で後押しをすることが大切と思う。

(自然環境部会 飯塚 紘一)

## 湯ノ丸山レンゲツツジ保存活動

私共が取り組んでいるレンゲツツジ保存活動をご紹介します。

湯ノ丸レンゲツツジ群落は昭和31年に国指定の天然記念物に指定されました、これは湯ノ丸牧場の開設により低木樹の新芽や草は家畜の飼料となり、やがて草原を形成したが、レンゲツツジだけは家畜の飼料にはならなかった(毒性がある為)ので群生が形成されたてきました。近年牛肉の自由化により牧畜の衰退化で放牧により維持されてきた草原が、高木樹が繁茂するようになりレンゲツツジも花を付ける力を失ってきた。このような状態の為適切な管理が必要となり平成9年度より文化庁の補助事業とボランティアによる保存活動より、適切な植物形態を残しつつ、繁茂した高木樹及び低木樹を刈払いレンゲツツジ群落に日の光をあて群落を増殖しようという事業を実施することになりました。この活動に村民・地元高校・中学・そして東京の中学も毎年参加するようになりました、その努力の成果が見られレンゲツツジも見事な花を付けるようになり多くの観光客が花を見に訪れております。レンゲツツジの環境を守って行くにはこの活動を村民一体で取り組んで行かねばなりません。是非皆様湯ノ丸山がオレンジ色に染まる季節に是非お越しください、素晴らしい自然との出会いになると思います。

(吾妻地域 大島 義夫)

## 環境アドバイザー・高崎地区会の紹介

県の環境アドバイザー登録制度が環境問題に熱意を抱く県民の自主的な申請を基本とする形態になった頃、地域での学習会等に参加する高崎市在住の面々が個々に環境問題に取り組むだけでなく、相互に連携・協力しながらの活動を推進しようとの思いから会を設立しました。

当初から環境ボランティアとしての活動目的や年会費等を定めた会則を設けています。

高崎地区の方が新たに環境アドバイザーに登録される都度、入会案内を示し、当会への参加を勧誘してきました。現在、当会の会員構成は環境アドバイザーだけでなく、会の趣旨に賛同して一緒に活動される方も含め50名程になり、活動も以下に述べるように年々、拡大しています。

1. 公共域の環境美化:市内の井野川沿いのごみ拾いや堤防に花の植栽を継続的に行う。
2. 県からの委託事業:①市民参加型の環境学習講座や見学会を企画運営して開催。②域内、小中学校に出向きエコムーブ号による体験型環境教育を施行。③マイバッグキャンペーンを域内スーパー店頭で市民への呼びかけ。(H13年度から40回以上実施)
3. 調査活動:①市内各所での大気汚染状態(NOX 測定)を H14年から継続。②炭素繊維による高崎公園内の池の浄化試験を群馬高専等に協力して水質検査。

環境問題への対応は“ Think globally Act locally ”をモットーに地域での行動、それには個々の活動よりも同じ想いの者が一緒に協力し、楽しみながら行動した方がより効果的との考えで会での活動を充実するよう努めています。

“ 1人の100歩より100人の一歩 ” という価値ある行動を目指して各地域での組織化を！

(環境アドバイザー・高崎地区会 野村 武彦)

## 荒れた公共空間を名所に変えました

県道39号線は伊勢崎から太田北部を經由し、足利へ通じます。伊勢先の東端部分で1級河川・早川を渡ります。この橋から下流左岸、約800mの区間に350本のロウ梅が等間隔に植えてあり、「ロウ梅の岸边」と名付けています。

かつて、夏ともなれば雑草が生い茂り、道路との境界に設けたガードレールを覆い、無造作に捨てられたゴミが目立ちました。道路管理者が1年に2回ほど草を刈っても綺麗なのはほんの一時で、正に「のれんに腕押し」でした。

私たち環境アドバイザーは「植樹して手入れをすれば環境と景観の相乗効果がある」と考え、行政当局に働きかけ土地利用の協定を結びました。樹種は、低木・根張りがよく、病虫害の少なく、花が楽しめる、等を考え「ロウ梅」と決めました。

苗は会員が提供し、植え付けには地元同行者の応援を得ました。植え付け時と芽吹きの際「水やり」をしたので100%活着しました。2回に亘り5本盗まれましたが、すぐ補植しました。

その後、毎年、草刈りは機械で3回、株元は鎌や剪定鋏で手入れを繰り返し、今では自他共に認める地域の名所となり、正月から2月末まで優しい花の姿と芳香を楽しむ来訪者が多くなっています。



(伊勢崎市あずま地区環境アドバイザー 増茂 満)



## ※ コスモスの秋:

気温40℃超えが各地で頻発し、74年ぶりに最高値を更新したことで、日本人の誰もがこの夏の猛暑を単なる異常気象と思うだけでなく、地球の温暖化の仕業と実感しているようです。暑さの余韻はつづきますが、それでもコスモスの開花で秋の訪れは群馬にもそれなりにあるようです。花々が然るべき時に然るべき地に咲ける環境が人にも優しい環境です。温暖化の進行を遅らせる為に何かを一つでも実行しましょう。

## ※ 新年度第1回専門部会:

本年4月からの登録者による専門部会が9月に入って、ようやく開催され、部会長が以下のとおり選任されました。

- 温暖化・エネルギー部会(9/1開催):小川仁司(H1901031)、○広報部会(9/4開催):野村武彦(H1904018)、○自然環境部会(9/4開催):飯塚紘一(H1909009)、
- ごみ部会(9/8開催):部会長/吉澤敏則(H1904021)

## ※ マイバッグキャンペーン:

9月1日～11月30日のマイバッグキャンペーンに当連絡協議会幹事のそれぞれの地域毎で例年通り、協力することになりました。容器包装リサイクル法の改正で大型店舗でのレジ袋の削減が義務付けられたので、店舗側の諸施策も加わり改善が期待されます。単なるチラシ配りに終わることなく、環境アドバイザーの目で実態を見究め、今後の活動の糧としてください。

## ※ 群馬県環境&森林フェスティバルへの参加:

連絡協議会として出展用テント1張り(温暖化・エネルギー部会を中心に“菜の花プロジェクト”や“お絵かきマイバッグ”など)とDRS(ディッシュ・リユース・システム⇒会場内売店の食器を使い捨てのワンウェイとせず、再使用のリターナブルとする方式)で環境負荷低減策をPRします。協力者の募集案内は全員宛にいたします。それらのボランティアとして是非、参加をお願いします。

日時 10月14日(日) 9時～15時

場所 県庁前広場、ロビー、ビジターセンター等

今後の行事予定並びに行事報告はインターネット・ホームページ

「ぐんま環境アドバイザーネット」

<http://gadviser.hp.infoseek.co.jp> に適時、掲載されています。

行事予定・報告等の掲載を要望される方は下記のE-MAILアドレスに連絡ください。

[gadviser@infoseek.jp](mailto:gadviser@infoseek.jp) または [nmrt@nifty.com](mailto:nmrt@nifty.com)

「グリーンニュース」のバックナンバーもホームページでご覧になれます。